

網走ほんりゅう教組

第419号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
3月17日

第24回定期大会 信頼される網走教組をめざして

網走教組の定期大会が三月七日(土)、北見市民会館で行われました。当日は一名が参加し、議案を基に議論をしました。



大坪委員長の冒頭の挨拶では、教員生活三八年の間に学校が大きく変わってきたという話がされました。以前は教員同士のつながりやゆとりがあり、教師も子どもも主体的に活動できる時間があったが、二一世紀に入ってから教育改革、つまり、教育基本法、教育委員会制度、国庫負担制度の改定が大きく影響しているという事です。このような情勢の中、網走教組の組合員が目指す道は「教育に関わるすべての人に信頼される人間になる」という事です。前半の討論では、教育を取り巻く情勢や各学校での動きについて話し合われました。後半の討論では、子どもたちの成長を促すために、家庭学習期間に子どもたちを残すために家庭学習はできないかという話がありました。道徳については今後の教科化に向けて、一人一人が学習を進め、上からの意図を押しつけられない授業作りができるようにしなければならぬという確認がされました。管理、無秩序の中で人と人の関わりを持たずに育ってきた子どもたちは、人の話を聞かない、人に感心がない、会話が成り立たない様子が見られます。子どもを育てる職業である私たちは、授業研究だけでなく、認知や発達についても学習を深めて、複眼的視点で教育活動をしていかなければならないのではないのでしょうか。

後半の討論は「網走教組をどんな組合にしたいか」という柱を中心に話し合いました。どうして網走教組に入ったのかというきっかけは、社会党一党支持の強制への反発、指令・指示の組合活動への息苦しさから網走教組に入ったこと、民主的に行われない校内人事への不信感などがありました。また、普段の授業づくりに対する組合員の姿勢やまなびバなどの存在があげられました。これからの目指す方向は、支部会議の充実を図りたい、教師としての背骨となる組合にしていきたい、自分たちと教育の課題に向き合い、一人一人の力を結集して活動をしていきたい、組合員であるだけで力が出るのでいつまでもそばにあり続ける組合であってほしい、一人一人が本質を追究し、社会のことに敏感になれる組合でありたい、何を指すのかが見えなくなっていくことを防ぐ道しるべや光となる組合であってほしい・・・という話が出ました。今回の定期大会で「網走教組の将来」についてみんなで討論できたのは素晴らしい成果であると思います。これからは、一人一人が「自分は何をしたのか、どんな組合をつくるか」を考えて活動していくことがこれからの網走教組を支え、さらに発展させていく力となるのではないのでしょうか。



次回支部代
四月四日(土)二時、
サンライフ

査定昇給に負けない学校づくりを 「学校づくりの申し入れ書」の学習を力に

「査定昇給制度」のねらいは、教職員の協力・共同の破壊です。この制度を持ち込もうとする道教委側は、「査定昇給制度」のねらいを「職員の士気向上」としていますが、実際には「士気向上」ではなく、学校現場に混乱を持たせる非教育的な性格が強いものであると考えます。

この制度が導入された今、学校現場では、大きな変化はありません。先生方の意識も変わりなく、今までと同じように教育活動が営まれています。しかし、このことに安心して私たちが何もしていないでいると、気づかないうちに学校や教育が大きく方向を変えて行くということになってしまうかもしれません。そうさせないためにも、今一度、私たちが考える教育の姿、学校の姿について「学校づくりのための申し入れ書」をもとに、各支部で学習しましょう。私たちが考える教育のあり方について深め合い、その力を学校長との話し合いに生かしていきましょう。

今回、「ほんりゅう」と一緒に「学校づくりのための申し入れ書」を届けています。新学期開始前に学校長に申し入れできるように、しっかり準備していきましょう。私たちがめざす学校や教育を進めていくことが、「査定昇給制度」のねらいを学校に持ち込ませない力になっていくと確信しています。申し入れるだけでなく、実践の一步を踏み出しましょう。



★日時 2015年5月9日(土)
10:00~15:00
★場所 北見市立西小学校(北見市とん田東町688)
同じ学校の若い先生方をたくさん誘って参加しましょう。

新年度の役員体制

- 執行委員長 大坪 哲也
- 書記長 和田 朗
- 書記次長 上田 健一郎
- 会計 山本 仁史
- 監査 若狭 美喜子

